



令和4年5月30日

奈良県田原本町

宮古平塚古墳（仮称）出土の太鼓形埴輪

令和4年4月に実施した発掘調査において、全国で4例目となる太鼓形埴輪が出土しました。また、これまでは破片のみが確認されている状況でしたが、今回出土した埴輪は、完全な形であり、当時の太鼓の形状がわかるものとして、全国初の発見となります。

記

- 日時 令和4年5月30日(月) 定例記者会見後～12:30
- 内容 宮古平塚古墳（仮称）から出土した太鼓形埴輪の説明
- 会場 田原本町役場 3階 301・302
(同日10時からの定例記者会見と同室)

※定例記者会見が終了したのち、簡単な会場設営を行います。

実物資料（遺物）の撮影が可能となるのは、会場設営が完了してからとなりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

田原本町教育委員会事務局

文化財保存課 TEL:0744-32-4404

【報道資料】

宮古平塚古墳（仮称）出土の「太鼓形埴輪」について

田原本町教育委員会事務局
文化財保存課

1. 調査名・回数 宮古北遺跡第24・27次調査
2. 調査地 田原本町大字宮古167番1ほか
3. 調査期間 24次：令和3年9月15日～令和3年10月22日
27次：令和4年4月18日～令和4年4月28日
4. 調査原因 工場兼事務所建築
5. 調査面積 480㎡（24次：419㎡、27次：61㎡）

○宮古平塚古墳（仮称）について

1. 当地は小字名が「平塚」であり、明治26年に古墳墓として記録されている場所でした。現在は、周辺に客土を入れ周囲の水田より一段高い畑地となっていました。今回の調査で、古墳であることが確認できました。
2. 造り出しのある一辺約20mの方墳で、周濠を含めた全長は40m余りと推定しています。時期は6世紀前半です。
3. 形象埴輪（太鼓形、盾形、馬形など）、円筒埴輪などが出土しました。

○太鼓形埴輪について

1. 古墳の東側周濠から出土しました。太鼓単体を表現した埴輪は、これまでに3例確認されており、今回で4例目になります。また、これまでの例は破片のみでしたが、今回の例は太鼓の全体像がわかるものとして全国初で、最古級です。
2. 太鼓の両面に、革を鋳止めした表現のある写実的なものです。鋳は円形の粘土粒を両端にそれぞれ14個・12個貼り付けて表現しています。
3. 太鼓については、『日本書紀』に「鼓」の記述がみられ、軍用・儀礼用に用いた楽器であったと考えられています。古墳に太鼓形埴輪を並べたのは、葬送儀礼の際に用いた道具あるいは軍楽隊の存在を表している可能性もあります。

※1 調査は終了し、現地は埋め戻されているため見学はできません。

※2 太鼓形埴輪以外の埴輪は現在整理作業中です。



長　　さ：28.0 c m
胴　部　径：25.0 c m
叩き面径：17.5 c m

※この埴輪は、高橋克壽氏（花園大学文学部教授）・辰巳和弘氏（元同志社大学教授）・千賀久氏（葛城市歴史博物館館長）・塚田良道氏（大正大学文学部教授）・和田晴吾氏（兵庫県立考古博物館館長）に確認していただいています。